

CLC からしだね書店 便り

February
2023

2

*今月の Special *

A君といっしょにすわり続けた
先生の話

Editor's view



CLC からしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落 でかわいい 雑貨や小物 もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチ も提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナー もあります。ほりだしものもあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会 など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。

CLC からしだね書店 & カフェ フィラデルフィア

営業時間 11:00-17:00
 定休日 日曜日と年末年始 (※祝日も営業)
 毎月第3木曜日は書店のみ営業

『服従の心理』

スタンレー・ミルグラム（河出文庫）

前編



ハンナ・アーレントの『エルサレムのアイヒマン』で有名なアドルフ・アイヒマンは、ナチスによるユダヤ人虐殺の実行責任者です。アーレントはエルサレムで行われたアイヒマンの裁判を傍聴し、アイヒマンがサディスティックな極悪人ではなく、どこにでもいる、組織に忠実な小役人であったことを報告しました。一般的な倫理観から逸脱した異常な人間でなくても、組織の中に入り、命令を受けると、普段では考えられないような残虐なことをやってしまう。アイヒマンが他の官僚と何ら変わらない平凡な人間であるならば、「普通の人間」である私たち自身の中にも同じような悪が潜んでいるのかもしれない。これがアーレントの提示した新しい悪のイメージです。

心理学者スタンレー・ミルグラムは、以上のような問題意識の下、組織の中に置かれた人間が権威者の命令に対してどのように振る舞うのかを実験によって明らかにしようとしていました。いわゆる「アイヒマン実験」です。『服従の心理』は、社会心

理学の世界でもっとも有名な実験のひとつであるこの「アイヒマン実験」の報告です。

実験の詳細な設定や手順は本書にゆずりますが、基本的な方法は以下のようなものです。

「記憶と学習に関する科学研究」という名目で集められた被験者は、もう一人の被験者である「学習者」が単語の記憶ゲームで間違えた場合、彼に電流を流すよう指示されます。実はこの「学習者」は役者で、電流が流されているふりをするだけなのですが、何も知らないのは電流を流す被験者だけです。役者である「学習者」は、何度も間違いを繰り返します。「学習者」が間違度度に、被験者は電撃の強度を上げるよう指示されます。「学習者」は、最初は電撃の痛みにうめき声を出すのですが、やがて激しく叫び声をあげて実験の中止を要求するようになり、最後には電流を流しても死んだように反応すらしなくなります。はたして「心理学実験」という名の下、命令が下されるだけで、人

は罪のない他人に残酷な罰を与え続けられるのか。

結果は衝撃的なものでした。実験前の大方の予想に反して、大半の被験者は最大レベルになるまで電撃を加え続けたのです。多くの被験者は電流を流される「学習者」の苦痛の叫びを聞いて、実験者に実験の中断を持ちかけたり、苦しむ「学習者」を見まといと目を背けたりしますが、結局最後まで電撃を加え続けます。つまり彼らは電撃を加えるという行為のためらいや嫌悪を感じながらも、実験者の指示に最後まで服従してしまっただけのことです。

多くの人は、こうした実験結果を予想できませんでした。「学習者」の苦しむ姿を見れば、普通の人間ならそれ以上電撃を加えるのを拒むだろうと考えたのです。ほとんどの人が実験結果を正しく予測できなかった理由を、ミルグラムは次のように説明します。



「こうした予想の根底にある想定は何だろうか？まず、人々はおおむね善良であり、罪もない人に平気で危害を加えたりしないというもの。次に、物理的な力や脅して脅迫されない限り、人の行動の源は何よりもその人自身だというもの。人がある形で行動するのは、本人がそ

う決断したからだ。（中略）ほとんどの人は、服従実験について検討を求められると、こうした事前の思い込みから出発する。そして、その人が置かれた状況よりはむしろ、自律的な個人の特性に注目してしまっ

（53～55頁）

多くの被験者は、実験中に感じた道徳的なためらいや緊張にもかかわらず、「学習者」を痛めつけ続けました。ここでのポイントとは、被験者は電撃を加えることで何か報酬を貰ったり、電撃を加えること自体を楽しんでいたのではないということです。彼らは電撃を加えたくないし、そうすることは道徳的に正しくないと思っていました。にもかかわらず、彼らは権威者から指示されたというだけで、その命令に従ってしまったのです。これは何を意味するのでしょうか。ミルグラムによると、人間の行動はその人自身の価値観や主体的な決断から生じるといふ素朴で楽観的な人間観を修正しない限り、この実験結果を合理的に解釈することはできません。



この状況での適切な行動について道徳的判断を下せと言われたら、みんな非服従が正しいと言っただろう。だが実際に進行中の状況で作用するのは、価値判断だ

けではない。価値観は人に影響するあらゆる力の中で、非常に狭い幅しかない動因の一つではない。多くの人は行動の中で自分の価値を実現させられず、自分の行動に不服だったのに、実験を続けてしまった。(22頁)

ミルグラムは実験の条件に微妙な変化をつけることで、どのような条件下で権威への服従の度合いが高まるのか(あるいは反抗の度合いが高まるのか)を調べていきます(実験の変種として例えば、「実験を大学の実験室ではなくダウンタウンのみずぼらしい商業ビルの一室で行うとどうなるか」「指示を出す権威者が席を外すとどうなるか」「電流を流すことに強く反対するサクラを加えるかどうか」「反対に、積極的に電流を流そうとするサクラを加えるかどうか」などがあります)。いずれの実験も非常に巧妙に設定されていて、それぞれ示唆に富む面白いものです。ぜひ本書を読んで詳細を確認してみてください。いずれにしても、基本的には人間は考えられている以上に権威に弱いらしいということが、実験全体から示唆されます。

しかしおそらくそれ以上に重要なことは、実験条件に小さな変更を加えるだけで、服従・非服従の割合が大きく変わったということ自体でしょう。なぜなら、人間の行動は人間の意志や価値観よりも、その人の置かれた状況に、より依存しているということ

を、それは示しているからです。

この実験結果は、主体性・価値観・道徳的判断といったものを大事にしている人にとっては面白くないものかもしれません。「そんなものはあてにならない。条件をちょっと変えるだけで、人間の行動はコントロールできてしまうのだ」とミルグラムは言っているからです。

もちろん実験結果そのものと、それをどのように解釈するかは別の問題です。以上述べたことも、ミルグラムの解釈にすぎません。実験結果から何を学び、どのような人間観を構築するかは、読者それぞれに委ねられています。しかし少なくともこの「アイヒマン実験」には、読者に人間観の再考を促すだけの衝撃があります。ぜひ皆さんも『服従の心理』を読んで、自明だと思っていた自分の人間観が揺さぶられる体験をしてみてください。

今回は引き続き『服従の心理』から、「どんな状況に置かれると、人間は権威からの命令を個人的な価値判断に優先させてしまうのか」ということを考えたいと思います。

【書店員 G】

Editor's view

A君といっしょにすわり続けた先生の話

CLCからだね書店 店長 坂岡 恵

ずいぶん前の話です。招待されて、特別支援学校高等部の卒業式に出席したことがありました。

卒業生入場から始まって、式は肅々と進み、

「校歌斉唱、一同起立」の声に、卒業生、在校生、先生、保護者、全員が一斉に立ち上がりました。私ももちろん立ち上がり、生徒さんたちの元気のよい「校歌斉唱」を心地よく聴いていました。そこまでは、「く」普通」のしみじみとした卒業式だったのです。ところが…。

「続きまして、君が代斉唱」と司会者が言った途端……、周りの人達がいきなり、ざっと着席してしまつたのです。生徒、先生、保護者の全員が、です。取り残されたように立っているのは私と、同じく外部から来たお客さん数名と、校長先生と司会者のみ。「ええっ？何が起きたの？」と、とまどう数名を置いてけぼりにして、「君が代」は校長先生のほほ独唱状態に…。

「日の丸・君が代」については、様々な考えがあり、クリスマスチャンの中にも反対する人が多いことは知っていました。天

皇を神として崇め、国をあげて戦争に突き進む、日本が「カルト国家」だった時代、「日の丸・君が代」がそのシンボルとして利用されてきた負の歴史を考えたときに、日本の「国旗・国歌」として認めたくない、という人もいます。『日の丸』を掲揚し「君が代」を歌うことが天皇を神とする偶像崇拜になるのではないかという解釈をする人もいます。そして、他にもいろいろ考え方があり、思っています。

私は、正直なところ「わからない」という立場でした。「わからない」という考えに留まっている者にとって、周囲がいつせいに全員「着席」するのは、ちょっと怖い気がしたのを今も覚えています。その場の雰囲気を読んで、周囲の「着席」に倣うこともできたかもしれませんが、その「着席」は、私にとって「君が代反対」の立場を表明することになるので、それはちょっと違う、と咄嗟に思いました。それで、座ることとせず、ただ特別に「君が代」に「賛成」しているわけでもないの、なんとも居心地の悪い「起立」の状態でした。唯一できるのは「立っているけど、歌っていない」状態をキープすることでした。周囲がそれをどんなふうに見ようが、私

は自分の心に従ってそうしていたのだと思います。

今思えば、あの卒業式で、校長先生と司会者を除く生徒、先生、保護者全員が、「着席」した経緯にはいろいろな理由と事情があったことと思います。教育現場にいる方たちにとって「日の丸・君が代」そのものに対する「反対」の表明ではなく、内心の自由なまま踏み込もうとする上からの圧力に対しての、精いっぱい抗議であり工夫だったのかもしれない。それでも、そこに生徒たちを巻き込んでよかったのか？という疑問は、あのとき感じた違和感とともに今も残り続けています。

本当はみんな生徒たちの晴れの卒業式、人生の門出を、感謝とねぎらいと祝福と応援の気持ちだけで満たしてあげたかったと思うのです。そして、卒業式の目的はそれ以外にあり得ません。

なぜ「君が代」が主役の卒業式になってしまったのか？卒業式は、踏み絵の場ではないのに。

大阪で特別支援学校の教師をしておられる奥野泰孝さんの『合理的配慮』による『君が代』不起立に対する処分撤回裁判の意見陳述書を紹介したいと思います。

2021年6月28日
意見陳述書

原告 奥野泰孝

第1 生徒が主役

1 支援学校（2006年までは養護学校）では、「生徒が主役」とよく言われます。重い障害を持った生徒の場合、食事、着替え、トイレ等での全介助や、言葉を使わないコミュニケーションの工夫が必要であったりします。もし「生徒が主役」ということを忘れたら、生徒の訴えを無視して教員が自分の都合で生徒の身体を移動したり、トイレで「今排尿しなさい」と強制することになります。生徒の自立支援をすることが「生徒が主役」ということだと思います。

2 私の所属する支援学校では、体育大会の時、教員は黒や白の体操服を着ます。児童生徒の活躍が目立つようにという配慮です。日頃は、教室内の雰囲気明るくなるような色の服を着たりもします。行事で舞台発表のある時は、立位できなかったり自力歩行できない生徒の後ろに教員が付きます。全身黒の目立たない服を着て、中腰というきつい姿勢で生徒を後ろから支えます。

卒業式も生徒（卒業生）が主役です。主役のために支援の方法などを考えます。自己肯定感を高め、周りへの感謝と将来への希望と決意を持って巣立って行く、そういうことを私は目指しました。

教師が処分され、やむにやまれず訴訟を起した裁判だという点です。またこの裁判は、「君が代」に反対するための思想やイデオロギーをめぐる裁判ではありません。

処分した大阪府は大阪維新の府政で、維新は今も教育現場で「君が代」を強制する動きを強めています。そのために、ちゃんと声を出して「君が代」を歌っているかどうか、教師や生徒の口元をチェックして回るという、戦前の日本の学校みたいなことまでやっています。

奥野さんの意見陳述書は、一人のクリスチャンの信仰の証でもあります。「これらのもつとも小さな者にしたのは、すなわち私にしたのです」とおっしゃるイエスの言葉に従って生きようとする一クリスチャンの、やむにやまれぬ信仰の闘い、その証です。

「日の丸君が代」を国のシンボルとして慕わしく思う人にも、とてもそんな気になれないという人にも、そして私のように「わからない」人にも、教育の現場で一生懸命に闘っているクリスチャンがいることを知っていただきたいと思います。そして、信仰や思想の立場がどうであれ、それぞれがそれぞれの良心に従って生きることができる社会であってほしいと願います。裁判は、今も続いており、大阪地裁の判決が5月17日に出版します。

第2 卒業式の目標と合理的配慮

1 2014年度卒業のA君については、毎日起こしているてんかん発作を式の間に起こさないようにすることが必要だと考えました。発作を起こすと、ぐったりし、介助しても自力歩行ができなくなる可能性があったのです。A君は立位を維持することができなくて学校では主に車いすを使っていました。自立支援の目的で3年間毎日、介助歩行をする時間を持つてきました。歩くことが生きる意欲にもなっていました。その成果を卒業式で披露すべきと私は考えました。周りのほとんどの人が起立した状況での取り残された孤独感発作の誘因になると考えました（前年卒業式で発作）。私はクリスチャンですが、日本社会の中で少数者としての孤立や不安を感じることがあるので、立てないA君が、周りを立っている人に囲まれ、信頼している担任教員も立つなら、どんなに不安になるか共感できました。

2 A君が発作を起こしにくくする接し方を私は3年間担任をして学びました。私は祈り、考え、斉唱時も彼と一緒に座って居るという合理的配慮をしました。結果としてA君は発作を起こさず、にこにこ自力で歩き、2m程は介助の手を離れ、式場を退場しました。

第3 教育の仕事と信仰

1 1981年、初任の養護学校は、主に筋ジストロフィーの児童生徒が在籍していました。私は図工・美術担当です。障害の重い児童生徒は風邪をひくと痰を自分で取り除けないことがあって生死に関与します。なのに私はよく風邪をひいてしまい、自分の健康管理ができないことに責められる思いでした。ある時学校隣接の病院の看護師に「この子たちの自己実現ってどういうことだと思いますか」と聞かれて、「自分がこうなりたいと思う夢を実現していくことでしょうか」と答えたものの、寿命の短い子どもたちを前にして、適切な答えが見つからず悩みました。そういう時にキリスト教に出会い、信仰を持つようになりました。隣人を自分自身のように愛することや、規則のために人が存在するのではなく、人のために規則があるんだということを聖書を通して学びました。

2 普通高校に転勤して、美術を通して、生徒の自己実現を支援しようとして取り組みました。また人権教育の大切さを学びました。そして2006年に現在も所属する支援学校に転勤した時は、初任の養護学校で十分出来なかったことをやり直せという神の導きと感じました。また、支援学校の美術教育には表現活動の根っこがあると目が開かれる思いでした。美術の表現活動は、自己肯定になり、自己実現に繋がると思いました。

第4 教育の目的

1 教育基本法にある教育の目的「人格の完成を目指す」とは、自己肯定して生きて行けるようにすることだと思います。子どもたちに獲得してほしいのは、今日を犠牲にしないで充実して生きる力だと思います。自己肯定し今日を生きていることが自己実現だと思います。重い障害の子どもと接していると本当に自己肯定の大切さを感じます。競争に勝つ力を身に着けるなんて教育の本質とは思えません。

2 特別支援学校は、障害にに応じて、一人一人の教育的ニーズに応じることができるよう存在しているのですから、立てない生徒の教育的ニーズは何か考えて合理的配慮をするのは当然だと思います。しないことは差別です。合理的配慮を選択し、実践したことがなぜ職務命令違反として処分の対象となるのでしょうか。

3 最後に。この訴訟は、「教育の目的とは何か」ということを根本的に問うものだと思います。現場の教員の経験と学びからくる判断がもっと尊重されるようになることを強く願い、裁判での判断をお願いします。

以上

《お知らせ》

◎災害や貧困により孤立化する社会において「となり人」なるものは、ユリウリウリなのかを考え、一人一人がとなり人に「なり」を考へる会です。過去には、日本キリスト教海外伝子「東日本震災の原発事故により故郷を奪われた青田恵日時」(2003年4月15日(土)14:00~16:00)の「となり人」(4月)の「となり人」に「となり人」について語っていただきました。場所：からしだね館 (NOOMに参加してください。)

お問い合わせ：申込め=からしだね館 担当：武田 takeyama@karashidane.or.jp

《お知らせ》

◎障がいのある方のための福祉施設でもある、ブックカフェからしだね書店は、体の弱い方やコロナワクチンを接種できない方のために、当面は、館内でのマスク着用をお願いしております。お食事中の会話まで制限することはありませんが、お話されるときは、マスク着用を心掛けていただけたらありがたく存じます。

突然ですが…「讃美歌の紹介」

最近の新しいゴスペルソングやワーシップソングは、歌いやすく、わかりやすいものがたくさんあります。が、ここで、あえて、古くから歌い継がれた讃美歌の持つ力、そして美しさも紹介したいと思います。古い讃美歌には、信仰者から信仰者へと脈々と引き継がれた信仰の遺産が輝いています。それは時を超え、国を超えて、昔から今へと私たちを励まし続けてくれます。ドイツ告白教会牧師ディートリッヒ・ボンヘッファー(1906~1945)は、ナチ政権に抗い、抵抗運動に加わり逮捕・処刑されました。この讃美歌の詩は、処刑の4カ月前に獄中で書かれ、婚約者に送られたものです。周囲を敵対する者に囲まれながらも、ボンヘッファーは、彼を思い、彼のために祈る人たちの存在に感謝しながら、平安に満ちて人生の最期のときを過ごしました。この讃美歌は、私たちの「善き力」に囲まれた人生を、励ましてくれるように思います。

『新生讃美歌』73番 『教会福音讃美歌』358番 『讃美歌21』469番

- 1 善き力に われかこまれ 守りなぐさめられて
世の悩み 共にわかち 新しい日を望もう
- 2 過ぎた日々の 悩み重く なおのしかかるよきも
さわぎ立つ 心しずめ みむねにしたがいゆく
- 3 たとい主から 差し出される 杯は苦くても
恐れず 感謝をこめて 愛する手から受けよう
- 4 輝かせよ 主のともし火 われらの闇の中に
望みを主の手にゆだね 来たるべき朝を待とう
- 5 善き力に 守られつつ 来たるべき時を待とう
夜も朝もいつも神は われらと共にいます

古書献本のお願!

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただくとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。ご事情により当店より回収に行かせていただくこともあります。ご相談ください)

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本 (多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし (料理、健康、経済等) にかかわる本
- 5 小説 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画 (人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みの
CD・DVD・月刊誌・週刊誌等は
受け付けておりません

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX075-574-0025
Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

竹下八千代様、一木訓治様 (切手献品)、橋爪範子様

1月の古書の収益は25,579円でした。【古本の売上を含むCLCからしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思えます。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

◆このたびの大雪では、JR山科駅が全国的にニュースで取り上げられる事態となり、山科駅になじみ深い私たちとしては、複雑な思いでした。何かしら春めいたものを感じる季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。◆今回の書店だよりは、はからずも「罪」がテーマになりました。◆「こどものための神のものがたり」では、「失樂園」の物語を通して、「罪」とは「何かをすることやしないことではない」「自分の内側に折れ曲がった心だ」と「罪」の本質について語られました。◆続いて「読書感想本」では、「服従の心理」の「アイヒマン実験」を通して、善良な市民が「権威者の命令」によって行った残虐な行為が、社会的・倫理的・法的に「罪」とされても、本人の心がそれを「罪」と認識しないとき、宗教的 (信仰的) にこの「罪」をどう理解するのか? が問われ、◆奥野泰孝さんの意見陳述書では、「権威者の命令」と、自分の良心が対立したときに、どちらに「服従」するのか? が問われました。キリスト者の良心と「罪」に抗う「態度」を、私たちに振りかかる問題として、リアルに突き付けられたように思います。◆全国で相次ぐ連続強盗事件で「権威者 (ルフィ) の命令」に従い、軽い間バイトのつもりで強盗殺人まで犯してしまった人に、私たちもなり得るとしたら、「罪」とは何か? 真剣に考えなければと思いました。

【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス
からしだね書店&カフェ・トライアングル
〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店だよりの
バックナンバーはこちらから

